



宮内 英明 議員

世界湖沼会議の誘致

世界湖沼会議を誘致できないのか

答

国・県と十分な連携をはかり、見極めていきます。

問

1984年、世界湖沼会議の第1回会議が「世界湖沼環境会議」として滋賀県大津市の琵琶湖畔で開催された。第1回目のテーマは「湖沼環境の保全と管理、人と湖の共存の道をさぐる」とし、琵琶湖宣言として採択された。以来、公益財団法人国際湖沼環境委員会が現地機関として協力し、約2年に1回、世界の湖沼や流域で起こっている環境問題について解決策などを議論する場として世界各地で開催され、今日ま

で15回を重ねて、第16回目は本年11月7日から11日までインドネシア共和国バリ島にて開催される。テーマは「湖沼生態系の健全性と回復力・生物多様性と種の絶滅の危機」と題されている。この第16回目の会議には、高島市から2名が出席し「びわ湖源流の郷たかしま」と言われる所以と「歴史的な水文化」の維持管理・保全のための地域住民ボランティア活動の一端をプレゼンテーションで披露される予定である。世界

的な水質源問題が顕著になる昨今、この好機に、市・県・国を挙げて国家プロジェクトとして取り上げ、山紫水明の地として高島市に世界湖沼会議を誘致できないか問う。

答 環境部長

世界湖沼会議の誘致については、これまでに日本・米国・ハンガリー・中国・イタリア・アルゼンチン・デンマーク・ケニア・インドの9ヶ国で開催され、日本では既に3回そのうち2回が滋賀県大津市で開催されています。次回の第17回は茨城県つくば市で開催さ

れることが決定しています。これまでの開催国決定の経緯を考えると、続けて同じ国で開催された例はなく、可能性はかなり低いと考えられます。今後、社会情勢の変化や財政状況などを勘案して国及び県と十分な連携をはかりながら見極めたうえで考えます。



BIWAKO おそうじ隊による湖岸の清掃風景

